

## 特別支援学級担任者の継続的な養成・研修システムの開発に関する研究

研究代表者	若松 昭彦 (特別支援教育学講座)
研究分担者	竹林地 毅 (特別支援教育学講座)
	牟田口辰己 (特別支援教育学講座)
	川合 紀宗 (特別支援教育学講座)
	氏間 和仁 (特別支援教育学講座)
	谷本 忠明 (特別支援教育学講座)
	林田 真志 (特別支援教育学講座)
	船橋 篤彦 (特別支援教育学講座)
	米沢 崇 (学習開発学講座)
	朝倉 淳 (初等カリキュラム開発講座)
	伊藤 圭子 (初等カリキュラム開発講座)

### I 研究の背景と目的

#### 1. インクルーシブ教育システムの構築と特別支援学級の現状と課題

特別支援学級は、インクルーシブ教育システム構築のための連続性のある「多様な学びの場」の一つとされている(中央教育審議会初等中等教育分科会, 2012)。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会, 2016)では、「特別支援教育に関する教育課程の枠組みを、全ての教職員が理解できるよう、学習指導要領の総則において、通級による指導や特別支援学級における教育課程編成の基本的な考え方を示していくこと」が明記された。この提言を受けて、小学校学習指導要領(平成29年3月公示)(文部科学省, 2017a)や中学校学習指導要領(平成29年3月公示)(文部科学省, 2017b)の総則に特別支援学級や通級による指導における教育課程の編成について規定された。

一方、学校基本調査(文部科学省)によれば、小学校や中学校の全児童生徒数は減少しているが、特別支援学級数や在籍児童生徒数は急増している。

また、特別支援学級担任者(以下、担任者とする。)について、竹林地(2014)はA県内の調査結果として、教職経験年数21年以上の者は75.5%であるが、担任者経験年数6年以下の者は68.9%であること、また、担任者のうち教職経験年数5年以下の者は6.1%であることを報告している。涌井・尾崎・武富・松見・菊地・工藤(2015)も全国調査の結果として、同様な状況があることを報告している。また、本学の特別支援教育教員養成コース卒業生においても、卒業後すぐに担任者となる例が散見される。

さらに、担任者の専門性については、特別支援学校教諭免許状保有率が30%程度で推移していること(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課, 2017)、短い期間で交代するため長期間にわたる担任者の専門性の維持が困難な状況があること(中央教育審議会初等中等教育分科会, 2012)等の課題が指摘されている。また、担任者だけでなく学校の管理職は、教育課程の編成のみならず指導内容・方法、とりわけ自立活動の指導について、よく理解できていないことも指摘されている(全国特別支援学級設置学

校長協会，2017)。

担任者の専門性担保のための手だてとして，年度当初，新たに担任者となった者を対象とした研修を都道府県教育委員会等が実施すること，教員養成段階において特別支援教育について学ぶこと，退職教員を講師として継続的に研修を実施すること等が提言されている（中央教育審議会初等中等教育分科会，2012）。また，涌井ら（2015）は，担任者に今後必要なサポートとして，日々の授業について相談できるネットワークの校内外での構築を提言している。

さらに，担任者の研修については，知的障害特別支援学級担任者や自閉症・情緒障害特別支援学級担任者が求める研修内容として，担任者となった当初には，「教室環境の整備」「時間割の作成」「年間指導計画の作成」「教育課程の編成」「教科等を合わせた指導」「個別の指導計画の作成」等が比較的多く挙げられるが，1年を過ぎると「教育相談」「キャリア教育」「教材教具の作成や工夫」「通常の学級の児童生徒への支援」が増え（竹林地，2014），担任者としての経験により研修内容のニーズが変化することが明らかとなっている。

## 2. 研究の目的

教員養成を行っている大学のうち，7大学の附属小学校等14校には，知的障害特別支援学級が設置されており，今後ますます教育研究の成果の発信が期待される。

本研究では，附属小学校等の特別支援学級の教育研究の成果を活用しつつ，大学における教員養成と自治体の教育委員会が実施する担任者を対象とした研修の一体的な実施を図り，継続的な担任者養成・専門性向上システムを開発するための基礎的なデータを得ることを目的とする。

（若松昭彦・竹林地毅\*）

## II 特別支援学級担任者を対象とした研修講座

### 1. 研修講座の概要

（1）趣旨：特別支援学級（知的障害）の教育活動の充実を図るため，附属小学校の特別支援学級の教育研究・実践の成果を活用し，担任者を対象とした研修を実施する。

（2）主催：広島大学大学院教育学研究科 特別支援教育学講座

（3）協力：奈良教育大学附属小学校，京都教育大学附属京都小中学校，広島大学附属東雲小学校

（4）後援：広島県教育委員会

（5）日程及び内容等

【平成29年11月25日（土）】

9:00～9:15 開会 オリエンテーション

9:15～10:45 実践報告 特別支援学級（知的障害）における生活単元学習の実際  
「かかわりあいを育み，楽しさ・喜びのある生活単元学習」  
京都教育大学附属京都小中学校 教諭 藤村 彰

11:00～12:30 実践報告 特別支援学級（知的障害）における交流及び共同学習の実際

「東雲小学校特別支援学級における交流及び共同学習の基本的な  
考えと実践」

広島大学附属東雲小学校 教諭 梶山 雅司

13:30～14:45 協議・実践交流1 特別支援学級の学級経営・授業づくり（教科等を合わせた授業）

京都教育大学附属京都小中学校 教諭 藤村 彰

広島大学附属東雲小学校 教諭 梶山 雅司

広島大学附属東雲小学校 教諭 城 一樹

広島大学附属東雲小学校 教諭 高橋 望

広島大学附属東雲小学校 教諭 高阪 英徳

15:00～16:10 実践報告 特別支援学級（知的障害）における自立活動の指導の実際

「児童の意欲を大切にした自立活動の指導」

広島大学附属東雲小学校 教諭 高橋 望

16:20～16:30 まとめ 広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 毅

【平成29年11月26日（日）】

9:00～9:15 開会 オリエンテーション

9:15～10:30 実践報告 特別支援学級（知的障害）における教科別の指導の授業の実際

「絵本や紙芝居を使つてのことばの授業」

奈良教育大学附属小学校 教諭 猪澤 由起子

10:30～12:00 実践報告 特別支援学級（知的障害）におけるあそびの授業の実際

「あそびの授業化について」

奈良教育大学附属小学校 教諭 佐野 直樹

13:00～15:00 協議・実践交流2 特別支援学級（知的障害）の学級経営・授業づくり（教科別の指導等）

京都教育大学附属京都小中学校 教諭 藤村 彰

奈良教育大学附属小学校 教諭 猪澤 由起子

奈良教育大学附属小学校 教諭 佐野 直樹

広島大学附属東雲小学校 教諭 梶山 雅司

広島大学附属東雲小学校 教諭 城 一樹

広島大学附属東雲小学校 教諭 高橋 望

広島大学附属東雲小学校 教諭 高阪 英徳

15:15～16:00 演習 特別支援学級（知的障害）における「かず」の指導

「知的障害のある児童生徒の算数・数学の指導」

広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 毅

16:00～16:20 まとめ 広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 毅

（6）受講者：小学校特別支援学級担任者 27名 中学校特別支援学級担任者 1名

特別支援学校教諭 2名 大学生・大学院生 5名

## 2. 受講者アンケート（直後）の結果

研修講座受講者30名からアンケート調査用紙を回収した。回収率は85.7%であった。

- (1) 回答者の所属：回答者の内訳では、小学校特別支援学級担任者が 73.3% (22/30) で一番多かった (Table 1)。

Table 1 回答者の所属の内訳

立場	人数
小学校特別支援学級担任	22
中学校特別支援学級担任	1
特別支援学校教諭	2
大学生・大学院生	5

- (2) 回答者の年齢：20代と40代以上が多く、30代が少なかった (Table 2)。

Table 2 回答者の年齢の内訳

年齢	人数	相対度数
20代	11	0.37
30代	3	0.10
40代	7	0.23
50代	8	0.27
60代以上	1	0.03

- (3) 現職経験年数：大学生・大学院生を除く受講者 25名の現職経験年数は、5年以下と26年以上が多く、6年から25年が少なかった (Table 3)。

Table 3 現職経験年数の内訳

経験年数	人数	相対度数
5年以下	8	0.32
6～10年	3	0.12
11～15年	2	0.08
16～20年	1	0.04
21～25年	2	0.08
26～30年	6	0.24
31～35年	2	0.08
36～40年	0	0
41年以上	1	0.04

- (4) 特別支援学級担任者経験年数：大学生・大学院生、特別支援学校教諭を除く23名の受講者の特別支援学級担任者経験年数5年以下の者が74%であった (Table 4)。

Table 4 特別支援学級担任者経験年数の内訳

特別支援学級経験年数	人数	相対度数
5年以下	17	0.74
6～10年	3	0.13
11～15年	2	0.09
16年以上	1	0.04

- (5) 特別支援学級の学級経営や授業づくりに関する理解の深まり：平均評価値が4（まあまあ深まった）を超えたのは、授業づくりに関する全ての内容（「生活単元学習」「交流及び共同学習」「自立活動指導」「教科別の指導」「遊びの授業」）であった (Table 5)。

Table 5 研修を通じて理解が深まったと受講者が感じた項目

項目	M	S D
特別支援学級（知的障害）の教育課程	3.88	0.60
特別支援学級（知的障害）の生活単元学習	4.56	0.50
特別支援学級（知的障害）の交流及び共同学習	4.23	0.66
特別支援学級（知的障害）の学級経営	3.83	0.55
特別支援学級（知的障害）の自立活動の指導	4.22	0.68
特別支援学級（知的障害）の教科別の指導	4.36	0.62
特別支援学級（知的障害）の遊びの授業	4.57	0.62

非常に深まった…5 まあまあ深まった…4 どちらとも言えない…3  
あまり深まらなかった…2 全く深まらなかった…1

- (6) 特別支援学級の学級経営や授業づくりに関する実行可能性の高まり：平均評価値が4（まあまあできそうになった）を超えたのは、授業づくりに関する「生活単元学習」「自立活動の指導」「教科別の指導」「遊びの指導」であった（Table 6）

Table 6 研修を通じて実行可能性が高まったと受講者が感じた項目

項目	M	S D
特別支援学級（知的障害）の教育課程	3.75	0.60
特別支援学級（知的障害）の生活単元学習	4.27	0.52
特別支援学級（知的障害）の交流及び共同学習	3.88	0.43
特別支援学級（知的障害）の学級経営	3.80	0.58
特別支援学級（知的障害）の自立活動の指導	4.04	0.59
特別支援学級（知的障害）の教科別の指導	4.00	0.68
特別支援学級（知的障害）の遊びの授業	4.22	0.68

非常にできそうになった…5 まあまあできそうになった…4  
どちらとも言えない…3 あまりできそうにない…2 全くできそうにない…1

- (7) 受講する前に困っていたこと：受講する前に困っていたことを3つ以内で記述することを求め、記述された内容を分類した。次の①から⑧の分類名の後の括弧内は記述数を示す。

- ①教科等を合わせた指導に関すること（9）：生活単元学習でどんなことをすればよいのか 等。
  - ②教科別の指導に関すること（9）：「たす」「ひく」「かける」の意味や、数とは何か。増える、減るなどについてどのように教えたら理解できるのか、身につくのか 等。
  - ③自立活動の指導に関すること（6）：こだわりが強い児童への支援、声掛け 等。
  - ④特別支援学級の学級経営に関すること（7）：子ども同士のかかわりの深め方 等。
  - ⑤授業づくりに関すること（10）：発達段階や学習課題が大きく異なる学年集団の中で、個々の課題にどう迫っていけばよいか。プリント学習に始まり、プリント学習に終わってしまう 等。
  - ⑥交流及び共同学習に関すること（1）：交流及び共同学習のこと。
  - ⑦校内の支援体制づくりに関すること（6）：管理職や他の教職員に理解してもらうにはどうするか 等。
  - ⑧その他（1）：実際に支援級の担任者がどのような点に困難を感じているのかを知り、来年以降のイメージを掴みたい。（大学生）
- また、これらの困っていたことが解決に近づいたかを問うたところ、受講者のほとんど

が、困ったことが解決に近づいたと評価した (Table 7)。

Table 7 研修を通じて困っていたことが解消された程度

選択肢	人数	相対度数
非常に解決に近づいた	6	0.24
まあまあ解決に近づいた	18	0.72
どちらとも言えない	1	0.04
あまり解決に近づかなかった	0	0
全く解決に近づかなかった	0	0

(8) 今後の実践に最も活かすことができるといった内容：今後の実践に最も活かすことができるといった内容を1つ記述することを求め、記述された内容を分類した。次の①から⑤の分類名の後の括弧内は記述数を示す。

- ①教科等を合わせた指導に関すること (11)：生活単元学習の単元づくり、実践報告者の生活単元学習や遊びの指導 等。
- ②教科別の指導に関すること (7)：かず、ことば (絵本) の授業 等。
- ③自立活動に関すること (2)：自立のとらえ方、指導計画 等。
- ④授業づくりに関すること (1)：児童に任せる学習活動。
- ⑤交流及び共同学習に関すること (1)：通常学級と支援学級の児童間の関係づくり。

(9) 新たなテーマや課題：受講して、今後、探究してみたい新たなテーマや課題を見つけたかを問うたところ、「まあまあ出てきた」「多く出てきた」を選択した受講者が大半を占めていた。また、「まあまあ出てきた」「多く出てきた」を選択した受講者にその具体を記述することを求め、記述された内容を分類した。次の①から⑤の分類名の後の括弧内は記述数を示す (Table 8)。

Table 8 研修を通じて受講者が新たなテーマや課題を発見した程度

選択肢	人数	相対度数
多く出てきた	13	0.26
まあまあ出てきた	12	0.63
どちらとも言えない	4	0.11
あまり出てこなかった	0	0.00
全く出てこなかった	0	0.00

- ①教科等を合わせた指導に関すること (10)：生活単元学習の年間計画の見直し、将来を見据えた生活単元学習のカリキュラム作り、生活単元学習における全校に発信できる支援学級の取り組み、児童が心から楽しめるような遊び (絵本の動作化、手遊び、たんけん、ごっこあそび等) 等。
- ②教科別の指導に関すること (4)：国語・算数の一斉授業で個々の課題を達成する学習活動をどのように進めたらよいか、どのような活動が考えられるか 等。
- ③自立活動の指導に関すること (3)：あそびの活動からできる自立活動の指導 等。
- ④授業づくりに関すること (7)：特別支援学級ならではの教科の題材を知りたくなった 等。
- ⑤交流及び共同学習に関すること (5)：職員全体の特別支援が必要な児童へのかかわり方や

理解を深めるためにはどうすればいいか、先生方の交流授業 等。

(10) **今後も継続して扱ってほしい内容**：今後も研修会で継続して扱ってほしい内容について、自由記述を求め、記述された内容を分類した。次の①から③の分類名の後の括弧内は記述数を示す。実践報告を求める記述が多かった。

- ①実践報告（11）：生活単元学習、「かず」「ことば」の授業づくり、自立活動、絵本を使った活動、あそびの実践例の紹介 等。
- ②実践交流・協議（5）：知的障害児学級の実践交流が少ないので、今後も継続してほしい 等。
- ③教材研究（1）：かずの教材研究。

(11) **今後学んでみたい内容**：今後学んでみたい内容について、自由記述を求め、記述された内容を分類した。次の①から⑥の分類名の後の括弧内は記述数を示す。

- ①実践例（2）：生活単元学習、国語、図工などの教科の実践例 等。
- ②指導方法・教材研究（9）：異年齢、小集団での学習活動 等。
- ③児童理解（2）：知的障害のある自閉症の児童の特性 等。
- ④学級経営、保護者連携（2）：学級での係活動、保護者との関係づくり 等。
- ⑤進路（1）：卒業後の進路を見通してつけておきたい力。
- ⑥担任者の連携（1）：担任者のネットワークづくり。

(12) **研修会の感想等（自由記述）**

①特別支援学級担任者

- ・明日から頑張ろう！という勇気と元気が出ました。早く子どもたちに会いたい、いろいろ試したいという気持ちになっています。また同じような研修があれば参加したいです。
- ・特別支援学級2年目で、いろいろと困ったことや悩んだことにぴったりと当てはまる良い研修会でした。1つの活動をすれば、その活動を広げることでもできることが分かりました。
- ・どの講座も「目から鱗」ばかりのものでした。無料で研修をさせていただき感謝しております。私の目指すところは「共生共育」、インクルーシブ社会です。特支担任として職場でできることを目の前の子どもたちを通してやるのみです。
- ・実際の指導を教えていただき、明日から使えることがたくさんありました。また、特別支援教育に携わる先生の温かく熱意のある姿に感動し、元気をいただきました。あきらめず、私も子どもたちとともに、また明日から楽しく過ごせるように努力します。
- ・いろいろな実践やアイデアを聞くことができ、実り多い2日間でした。
- ・また、このような講座をぜひ設けていただきたいです。今日は本当に勉強になりました！
- ・特別支援学級の主体的な活動を中心とした実践例を知ることができてとても参考になりました。2日間の最後の意見交流の時間に話ができたのも良かった。
- ・今回は大変貴重な実践または講話を聞かせていただきありがとうございました。先生と話ができ、実践報告を聞くことができ、もっとこうしてみたいと意欲がわきました。
- ・とても有意義な2日間でした。日頃いろいろ迷いながら子どもたちと過ごしていました

が、実践を聞き、他の先生の実践、協議会、発表など聞いてたくさんアイデアを貰いました。明日からの実践にいろいろできそう楽しみです。

- ・いろいろな先生の実践を知ることができました。できそうなことからまねをしながら取り入れていきたいです。
- ・普段知ることのできないことをたくさん学ばせて頂きました。
- ・中学校なので小学校の先生のお話がとても勉強になりました。取り入れてみたいものもありました。もっと楽しく学べる授業を増やしていきたいです。一方で、中学なので座学も生かしていこうと思います。
- ・たくさんの方とお話ができて実践など聞くことが出来て大変役立ちました。教員のつながりも出来て良かったです。また是非参加したいと思います。
- ・知的学級についての研修会、大変勉強になりました！是非またやってほしいです！
- ・実践について詳しく聞け、悩みも相談できて良かったです。また参加したいです。

### ②特別支援学校教諭

- ・特別支援学校からの参加でしたが、生単や自立、遊びの学習など今後の指導に生かせるアイデアや工夫、考え方をたくさん知ることができました。
- ・支援級の担任者が難しいと感じられていること、学校内での困りごとを直に聞くことができたのが最大の収穫でした。周囲の先生が「これやってみよう、使えるわ」とわくわくしておられたのが非常に印象的でした。

### ③大学生・大学院生

- ・実践経験の無い自分でも、子どもの姿がよくわかるお話が聞けて、わくわくしました。真似してみたいと強く思いました。グループ協議では、学校や地域の事情の話で盛り上がる事が多くありました。
- ・現在学生のため、現場での経験や専門性がなく、学ぶことだらけでした。春、現場に出たとき、今日学んだことを活かせるよう頑張りたいと思います。
- ・支援学級の先生と普段の様子が交流できたこと、実践を知ることができ、勉強になりました。今後の指導に活かしていきます。
- ・大変大きな学びとなりました。様々な先生にお話を聞けて、考えが深まりました。

(牟田口辰己・川合紀宗・氏間和仁・谷本忠明・林田真志・竹林地毅\*)

## Ⅲ 考察

### 1. 担任者の専門性向上を図る研修内容・方法

涌井ら(2015)は、担任者を対象とした全国調査を実施し、役立つとされた研修内容は「知的障害教育の特性と配慮」「知的障害教育に関わる指導方法」「知的障害教育に関わる教材・教具」であること、また、役立つとされた研修形態は「事例検討会」であることを報告している。

本研究で実施した研修講座では、研修内容として「特別支援学級の教育課程」「生活単元学習」「交流及び共同学習」「特別支援学級の学級経営」「特別支援学級の自立活動の指導」「特別支援学級の教科別の指導」「特別支援学級の遊びの指導」を設定した。また、研修方法として「実践報告」「協議」「実践交流」「演習」(ペットボトルや空き缶を使った算数・数学の教材研究)を実施した。

受講者アンケートでは、知的障害のある児童生徒の指導方法に関する内容（「生活単元学習」「交流及び共同学習」「特別支援学級の自立活動の指導」「特別支援学級の教科別の指導」「特別支援学級の遊びの指導」）についての理解の深まり、実行可能性に高い評価を得た。また、自由記述等から、研修方法として、「実践報告」「協議」「実践交流」が評価されていることがうかがえた。一方、「特別支援学級の教育課程」「特別支援学級の学級経営」は、理解の深まり、実行可能性ともにやや低い評価となり、「演習」も含め、受講者の個別の状況（例えば、担任している児童生徒の実態等）に応じることが不足していることが要因として考えられた。

受講者の自由記述に記された「早く子どもたちに会いたい、いろいろ試したいという気持ちになっています」等を拠り所とすると、「いろいろ試行したこと」（実践）と「その実践の成果と受講者の評価」（評価）と「研修」（新たな計画）がつながっていくことが不可欠と考えられる。年間を通じた、数回にわたる連続した研修の受講が、担任者の専門性向上を図ることになると考えられる。

## 2. 担任者の養成のための内容・方法

受講した大学生・大学院生の受講者アンケートの自由記述からは、現職の教師の実践報告を聴講すること、実践報告をもとにした協議や各受講者の直面している状況を反映した実践交流に参加することにより、「教育実践をする立場になりたい」という意欲が高まっていくことがうかがえた。

木原（2012）は、教師の授業づくり（授業の設計・実施・評価）に関する力量を3層構造で描いている。見えない「信念」を中核とし、行為によって確認しうる「技術」を表層に位置づけ、両者を「知識」が仲介する構造である。また、「信念」は、子供観、授業観・学校観によって構成されるだけでなく、「授業レジリエンス」によって影響されることを想定している。さらに、「授業レジリエンス」は、「同僚との関係性」をベースにして、課題克服のための材料を豊富に有していることを意味する「イメージ」と建設的な態度である「ムード」によって支えられた創造的な「チャレンジ」により構成されるとしている。

大学生・大学院生が、現職の教師の実践報告を聴講すること、協議や実践交流に参加することは、次のように位置付けることができるのではないだろうか。

- ①大学生・大学院生は、担任者の実践や意見の背景にある「信念」を学んでいる。
- ②大学生・大学院生は、授業づくりのための材料を実際的に得ることができ、担任者の建設的な態度と教育実践へチャレンジする意欲の高まりも感じている。

（朝倉 淳・伊藤圭子・米沢 崇・船橋篤彦・竹林地毅\*）

## IV 研究の成果と今後の課題

本研究から得られた知見は、考察で述べた担任者に役立つ研修内容・方法、大学生・大学院生が研修講座に参加することの効果である。一方で、長期間にわたる担任者の専門性の維持が困難な状況は、今後も継続すると考えられる。

担任者に必要と考えられる支援として、涌井ら（2015）は、課題や困難について相談しあえる担任者間のネットワークの構築、教育課程や指導について相談の選択肢の充実、管理職による支援（外部の専門家等とのネットワークの構築等）、担任者を対象とした研修の充実

を指摘している。大学生や大学院生が参加する担任者を対象とする研修を実施することが、課題や困難について相談しあえる担任者間のネットワークの構築にもつながることが期待され、継続的な担任者の養成・専門性向上に資することになると考えられる。特別支援学級を設置する教育委員会と大学の企画・運営により、年間を通じた、数回にわたる連続的かつ系統的な研修を実施していくことが課題である。

(若松昭彦・竹林地毅\*)

## 引用文献

- 竹林地毅 (2014) 小学校特別支援学級担任者の専門性向上に関する調査. 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, 第 12 号, 75-82.
- 中央教育審議会初等中等教育分科会 (2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告). [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm) (2017 年 12 月 25 日閲覧).
- 中央教育審議会 (2016) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申). [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2017 年 12 月 25 日閲覧).
- 木原俊行 (2012) 授業研究と教師の成長. 授業研究と教育工学. ミネルヴァ書房, 30-33.
- 文部科学省 (2017a) 小学校学習指導要領. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661\\_4\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf) (2017 年 12 月 25 日閲覧).
- 文部科学省 (2017b) 中学校学習指導要領. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf) (2017 年 12 月 25 日閲覧).
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2017) 特別支援教育資料 (平成 28 年度). [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/29/1386911\\_003\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/29/1386911_003_1.pdf) (2017 年 12 月 25 日閲覧).
- 涌井恵・尾崎祐三・武富博文・松見和樹・菊地一文・工藤傑史 (2015) 知的障害特別支援学級 (小・中) の担任が指導上抱える困難やその対応策に関する全国調査-研修, 支援体制からの考察-. 平成 24~25 年度 知的班の研究班活動による調査. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, 145-147, 191-192. <http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/8994/20140407-171029.pdf> (2017 年 12 月 25 日閲覧).
- 全国特別支援学級設置学校長協会 (2017) 平成 28 年度全国特別支援学級設置学校長協会 実態調査「特別支援学級における自立活動に関する調査」調査報告書. <http://zent2014.xsrv.jp/htdocs/%E5%89%8D%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%81%BE%E3%81%A7%E3%81%AE%E8%B3%87%E6%96%99-1/%E5%B9%B3%E6%88%90%EF%BC%92%EF%BC%98%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E8%B3%87%E6%96%99/> (2017 年 12 月 25 日閲覧).